

社会福祉法人ひかり

平成30年度 事業報告

目次

【法人の理念】	．．．．．	P. 1
【法人の使命】	．．．．．	P. 1
1. 法人運営について	．．．．．	P. 2
2. 経営会議について	．．．．．	P. 3
3. 職員の退職・入職について	．．．．．	P. 3
4. 情報発信力の強化について	．．．．．	P. 3
5. 人材育成および資質向上について	．．．．．	P. 4
6. 実地指導・監査について	．．．．．	P. 4
I. 東戸塚地域活動ホームひかり		
1. 日中活動事業	．．．．．	P. 6
2. 生活支援事業	．．．．．	P. 14
3. 相談支援事業	．．．．．	P. 18
4. おもちゃ文庫事業	．．．．．	P. 24
5. 余暇活動支援事業	．．．．．	P. 26
6. 地域交流事業	．．．．．	P. 28
7. 各委員会	．．．．．	P. 30
II. ラフォーレさくら	．．．．．	P. 32
III. 後見的支援センターとつかエコー	．．．．．	P. 37
IV. ホープ川上	．．．．．	P. 40

【法人の理念】

「人間らしく生きること」

すべての人が、人間として、その人らしく生きることを支援します。

【法人の使命】

1. 地域の人々の、障がいへの理解を推進すること。
2. 利用者の QOL（生活の質）を高める支援を行うこと。
3. 利用者個々のニーズに応え、利用者自らが主人公となる活動を提供すること。
4. 職員は常に学ぶことを忘れず、自己研鑽に努めること。
5. 区内および近隣区の福祉・教育・保健・医療等の関係機関、団体と連携し、地域ケアシステムにおけるネットワーク形成の拠点となること。

1. 法人運営について

今年度の理事会・評議員会の開催状況は、以下の通りです。

名 称	日 時	内 容
第 64 回 理事会	平成 30 年 5 月 31 日 (木) 18:00~19:30	《議決事項》 ・平成 29 年度 事業報告案の件 ・平成 29 年度 決算案の件 ・平成 29 年度 監事監査報告の件 ・定款細則の件 ・就業規則一部改正の件 ・評議員会開催の件
第 58 回 評議員会	平成 30 年 6 月 22 日 (金) 18:00~19:30	《議決事項》 ・平成 29 年度 事業報告案の件 ・平成 29 年度 決算案の件 ・平成 29 年度 監事監査報告の件 《報告事項》 ・定款細則の件 ・就業規則一部改正の件
第 65 回 理事会	平成 30 年 9 月 28 日 (金) 18:00~19:30	《議決事項》 ・平成 30 年度 第 1 次補正予算案の件 ・就業規則一部改正の件 ・生活介護 定員変更の件 ・給与規程一部改正の件 《報告事項》 ・理事長の職務執行状況報告の件 ・業務執行理事の職務執行状況報告の件
第 66 回 理事会	平成 30 年 12 月 11 日 (火) 16:30~18:00	《議決事項》 ・平成 30 年度 上半期事業報告案の件 ・平成 30 年度 第 2 次補正予算案の件 ・テレワーク勤務規程制定の件
第 67 回 理事会	平成 31 年 3 月 27 日 (水) 18:00~20:00	《議決事項》 ・平成 30 年度 最終補正予算案の件 ・平成 31 年度 事業計画案の件 ・平成 31 年度 当初予算案の件 《報告事項》 ・理事長の職務執行状況報告の件 ・業務執行理事の職務執行状況報告の件 《その他》 ・平成 31 年度 理事・監事選任（改選）の件

2. 経営会議について

理事長、理事、施設長を構成メンバーとして、経営・運営上の課題検討に加え、理事会・評議員会の準備と開催時期など、毎月1回開催しました。

3. 職員の退職・入職について

< 東戸塚地域活動ホームひかり >

【入職】	平成 30 年 4 月	生活支援員	2 名	(常勤職員 : 女性)
		生活支援員	1 名	(パート : 女性)
		相談員	1 名	(常勤職員 : 男性)
	10 月	相談員	1 名	(常勤職員 : 男性)
		生活支援員	1 名	(パート : 女性)
	11 月	事務員	1 名	(パート : 女性)
	12 月	生活支援員	2 名	(パート : 女性)
		事務員	1 名	(パート : 女性)
【退職】	平成 30 年 4 月	相談員	2 名	(常勤職員 : 女性)
		相談員	1 名	(常勤職員 : 男性)
	6 月	生活支援員	1 名	(常勤職員 : 女性)
	12 月	事務員	1 名	(パート : 女性)
	平成 31 年 2 月	生活支援員	1 名	(パート : 女性)
	3 月	生活支援員	1 名	(パート : 女性)

< ラフォーレさくら >

【入職】	平成 30 年 6 月	生活支援員	1 名	(パート : 女性)
【退職】	平成 30 年 6 月	生活支援員	1 名	(パート : 男性)

4. 情報発信力の強化について

戸塚区のコミュニティ FM 局として、地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」という番組の中で、東戸塚地域活動ホームひかりのイベント情報の発信、日中活動利用者の横浜マラソン車椅子完走インタビューの放送、ラフォーレさくらの活動内容を含めた施設情報を発信しました。

理事長が株式会社エフエム戸塚の放送番組審議委員となり、今年度4回開催された放送番組審議会に出席し、エフエム戸塚が放送する番組を審議しました。また、東戸塚絆の会に参画し、毎月一回開催される会合に出席して、地域との連携強化を図りました。

5. 人材育成および資質向上について

外部研修を中心に、関係職員を参加させ、職員の資質向上に努めました。参加した研修については、各事業で報告しています。また、職場内での委員会や担当活動、自立支援協議会や地域活動ホーム合同研修会等、職場内外で様々な役割を担い、受け身ではなく主体者として職場や地域に発信できる力を育てました。

6. 実地指導・監査について

社会福祉法人型障害者地域活動ホームの実地指導、地域活動支援センター障害者地域作業所型の監査が実施されました。

指摘事項ならびに注意事項については、改善を図りました。

< 東戸塚地域活動ホームひかり >

- ◆日時 平成 31 年 1 月 21 日（金） 9 時 30 分～17 時 00 分
- ◆担当者 横浜市 健康福祉局 障害支援課 職員 4 名
障害福祉課 職員 2 名
監査課 職員 1 名

指摘区分	通知事項
監査項目	指導・指摘事項
運営	・指定生活介護事業について、利用契約が更新されていないまま利用を継続しているケースがあったので、直ちに利用を締結すること
処遇	・個別支援計画の同意、同意日、会議録がないものがあったため、適切に記録・保存すること ・施設内の事故等により、通院をしたケースについては、事故報告書を提出すること
消防	・冷蔵庫の転倒防止策を講じること ・カーテンについて、防災性能を有するものとし、その旨が表示等により明らかにされていること
労務	・労働契約を締結する際、労働者へ明示すべき労働条件について不足している項目があるので、改善すること（非常勤職員の雇入れ時に文書の交付により「相談窓口」を明示すること） ・労働者名簿の記載事項に不備があるため是正すること（退職事由を記載すること） ・衛生推進者を職員に周知すること

< ラフォーレさくら >

- ◆日時 平成 30 年 7 月 5 日（木） 13 時 30 分～17 時 00 分
- ◆担当者 障害者支援センター 職員 2 名
外部専門職 2 名

注意事項
①給食費や利用者負担金について、現金で受領し保管している期間があるため、現金出納帳を作成し、複数名で残高確認を行うこと
②パート就業規則第 21 条（懲戒の種類）における減給の規定を労働基準法に基づいて改定すること
③給与規定第 4 条（給与の計算および支給日）について、給与の締切日に関して手当を含め算出期間を記載すること
④個別支援計画書について、本人・家族と確認し同意日の署名および押印すること
⑤業務日誌やケース（カンファレンス）記録には、記載者名の記載と所長の確認印を押印すること また、運転管理表についても所長の確認印を押印すること
⑥防災訓練は、消防計画に基づき利用者を対象として年 2 回以上実施し、その際には消防署に通知し、訓練の記録を残すこと
⑦防災備蓄品について整備するとともに、台帳を作成して管理を行うこと

I. 東戸塚地域活動ホームひかり

1. 日中活動事業

(1) 利用実績

<平成 30 年度>

生活介護事業（定員 35 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	21	21	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241	20.1
延利用者数	681	684	675	680	662	581	718	677	613	584	621	610	7,786	648.8
利用者数/日	34.1	32.6	32.1	32.4	33.1	32.3	32.6	32.2	32.3	30.7	32.7	30.5	-	32.3
入浴利用人数	33	30	23	37	29	26	39	30	24	25	29	30	355	29.6
送迎利用人数	751	724	752	734	735	606	745	701	628	620	663	648	8,307	692.3

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	21	21	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241	20.1
延利用者数	47	51	51	49	47	32	51	46	43	42	43	42	544	45.3
利用者数/日	2.4	2.4	2.4	2.3	2.4	1.8	2.3	2.2	2.3	2.2	2.3	2.1	-	2.3
入浴利用人数	4	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1.1
送迎利用人数	20	21	25	16	18	12	16	16	14	14	14	18	204	17.0

<平成 29 年度>

生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	242	20.2
延利用者数	597	561	638	619	594	609	625	585	596	558	585	640	7,207	600.6
利用者数/日	29.9	28.1	29.0	31.0	29.7	30.5	29.8	29.3	29.8	29.4	30.8	30.5	-	29.7
入浴利用人数	30	31	27	26	28	25	30	36	31	29	29	24	346	28.8
送迎利用人数	693	677	729	746	701	700	751	688	699	634	688	771	8,477	706.4

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	242	20.2
延利用者数	51	49	54	49	48	48	50	53	69	39	45	67	622	51.8
利用者数/日	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.6	3.4	2.0	2.3	3.2	-	2.5
入浴利用人数	4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	3	3	48	4.0
送迎利用人数	20	21	23	21	18	19	21	17	20	19	18	21	238	19.8

新卒の利用者4名が加わり、年度途中には既卒の利用者2名を受け入れました。年間を通して6名の方が退所されているので、3月末時点の利用者数は、63名となりました。来年度は、新卒の利用者5名・既卒の利用者1名を受け入れ、69名でのスタートとなります。

実習に関しては新卒、既卒を問わず、多くの利用者を受け入れました。

(2) 日中活動全体

1) 職員体制

年度途中に退職した職員や、産休育休取得職員もいた為、パート職員を補充しましたが、夜勤や週末勤務の影響もあり、慢性的に昨年度より少ない職員数で日々のグループ運営を行いました。

おのずと職員一人一人の業務も増加しましたが、それぞれが以前より効率良く業務にあたり、また、職員間やグループ間で以前より協力体制が構築された事で、直接支援に支障をきたすようなことはありませんでした。

2) ケア会議

毎月開催し、連絡事項や事故/ヒヤリ・ハット報告の検証と改善策等について話し合いました。

今年度は進路実習や既卒の方の体験実習を例年より多く受け入れた為、学校や相談支援部からの情報を事前に共有しました。また、徐々に利用者もそのご家族も高齢となり、身体機能の低下がみられる方もいるので、グループホームを利用しながらの地域生活も見据え、長期的・将来的な展望も話し合いました。

3) 土曜余暇活動

年間を通して、計6回の土曜余暇を開催しました。

外出企画を3回、季節にちなんだ室内企画を3回実施しました。どの企画も、日中活動では体験できないようなものが多くみられ、少人数での活動を活かした内容となりました。土曜余暇は、自主性や社会性を伸ばし、育む大切な機会となってきているようです。利用者やご家族にも定着しつつあり、リピーターが増加傾向にあります。

来年度も、過去の経験を活かし、個々にとって価値を見出してもらえるような余暇支援を継続して行う予定です。

<開催日とプログラム>

No.	開催日	プログラム
1	5月12日	フラワーアレンジメントを作ろう
2	7月14日	横浜市電保存館に行こう
3	9月22日	みんなでパンを焼こう
4	11月17日	シンボルタワーに行こう
5	1月19日	手打ちうどんで温まろう
6	3月9日	あーすぷらざに行こう

4) 宿泊旅行

5月と11月に、伊豆稲取へ一泊二日の旅行に行きました。

宿泊施設はスロープ付きの浴槽で、車椅子の方でもゆっくり温泉を楽しむことができました。ロケーションも目の前が海なので眺めも良く、また食事は海の幸や釜飯などを堪能しました。5月は芦ノ湖の遊覧船、11月は箱根園水族館に寄り、2日間とも充実した旅行になりました。

5) 地域とのつながり

自主製品販売を通して地域との関わりを深める目的で、ひかりを含めた戸塚区内4事業所からなる「T'sくらふと+」も、年を追う毎に認知度が広がり、事業所間の連携もスムーズになってきました。

下半期には全体が集まっての会議は行いう事が出来ませんでした。区内の各種行事やイベントでの委託販売も各事業所間で連絡を盛んに取り合い、販売機会の確保に繋がりました。

どのお祭りで何が売れるのか、予想もつき始めて来たので、ニーズに合わせた商品展開を出来るように来年度準備していきます。また、会議の開催も必要に応じて実施し、集まりにくい際にはメールや電話でのやり取りで補えるよう努めていきます。

6) 情報の発信

引き続き日中活動利用者、ご家族対象に広報誌「その人らしく」を3ヶ月に一度配布しました。発行が遅れてしまう事もありましたが、いつもの活動の様子をはじめ、土曜余暇や一日外出、宿泊旅行の様子、その他各種イベントの様子も掲載しました。

毎回利用者に題字やイラストを描いてもらい、味わい深いものになりました。

ご家族向けには長期休みのお知らせ、台風接近による送迎サービス実施のお知らせをその都度配布し、4月にはご家族懇談会も開催してひかり全体や日中活動部の年間予定をお伝えしました。

11月には、NPO法人ゆうの風の方に来ていただき、「あんしんノート書き方講座」を開催しました。想定していたより参加者は少なかったのですが、参加者からは「話を聞いて良かった」「将来の事を考える良い機会になった」等、感想をいただきま

した。また、来年度のゴールデンウィークに関しては、デイサービスを実施する日もあるので今年度のうちにお便りを配布しました。

7) 実習生の受け入れ

高等部3年生11名と体験実習の2年生を1名、既卒者5名の計17名を受け入れました。

No.	実習			性別	学校名<学年>	居住区	目的
	月	所属	期間				
1	5月	カシオペア	3日間	女性	既卒	保土ヶ谷区	通所
2	6月	ペガサス	3日間	男性	中村特別支援学校	港南区	進路
3		フェニックス	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	戸塚区	進路
4		フェニックス	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	保土ヶ谷区	進路
5	7月	ペガサス	5日間	男性	上菅田特別支援学校	保土ヶ谷区	進路
6		カシオペア	5日間	女性	本郷特別支援学校	戸塚区	進路
7		カシオペア	3日間	女性	既卒	戸塚区	通所
8	10月	フェニックス	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	戸塚区	進路
9		フェニックス	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	戸塚区	進路
10	11月	カシオペア	5日間	女性	保土ヶ谷養護学校	戸塚区	進路
11		DEM	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	南区	進路
12		カシオペア	4日間	男性	港南台ひの特別支援学校	港南区	進路
13	12月	フェニックス	3日間	男性	既卒	戸塚区	通所
14	1月	ミルクィウェイ	2日間	男性	保土ヶ谷養護学校	保土ヶ谷区	進路
15		カシオペア	3日間	女性	既卒	戸塚区	通所
16		ペガサス	1日間	男性	鎌倉養護学校	栄区	進路
17	2月	カシオペア	3日間	女性	既卒	戸塚区	通所

(3) 各グループ

1) DEM

新卒の女性利用者1名を受け入れ、3月末時点で計10名（男性5名、女性5名）の在籍となりました。新人利用者の技術がなかなか追いつかず、工房内での一体感が生まれるまでにかかなりの時間を要しましたが、在籍の長い利用者達が穏やかに受け入れる事で、だいぶまとまりが出てきたように見受けられました。

1月には、ご愛顧いただいているお客様の推薦により、くるみレーズンが「おいしいもの とつかブランド」に認定されました。それに伴いこれまで以上に「商品作り」に対する意識向上と責任感の必要性を感じました。

今年度も川上北小学校個別支援級の生徒達との交流を継続、7月にはひかりでメロンパン作りを体験し、9月には川上北小でお茶会を楽しみました。今後も、交流

の場面を設定し良好な関係性を継続する事を確認しました。

1日外出は年に2回、江ノ島水族館とお台場に出掛け、日々の慰労と活動の励みとなるよう楽しい時間を過ごしました。

2) フェニックス

2月に既卒の男性利用者1名を受け入れ、3月末時点で計18名（男性12名、女性6名）の在籍となりました。

活動内容は、缶潰しと清掃活動を中心に行い、作業毎の分担と、わかりやすい仕事内容を継続しました。

運動プログラムでは、利用者毎にメニューを変え、ウォーキングでは体調によって、距離を変えました。また、ゲーム的な要素で、ボーリングやジェンガを取り入れて、楽しめる活動に努めました。

新規活動では、アロマリラックスを取り入れ、和める雰囲気作りを心掛けました。また、3月に1日外出で、根岸森林公園に行きました。

3) ペガサス

5月末と7月末にそれぞれ男性利用者1名、12月末に女性利用者1名の計3名が退所されたため、3月末時点で計8名（男性3名、女性5名）の在籍となりました。

活動内容は、ストレッチや体操、個々に必要な運動プログラムを主軸に行いました。また、定期的に体重測定も実施しました。その他には、利用者を交えて、月間プログラムを作成し、季節にちなんだ行事（合唱会・書初め・ハロウィン・すいか割り）を取り入れました。活動への関心が高まると共に、積極的な姿勢が見受けられました。昨年度に引き続き、近隣施設へ書類やDEM製品の配達を行い、地域の方と触れ合う機会を提供しました。

1日外出に関しては、2月に放送ライブラリーへ行きました。ガチャピン・ムック展が丁度開催されており、フォトスペースで写真を撮ったり、実際テレビ番組で使用されていた小道具をゆっくりと鑑賞されていました。食事の場面では、普段あまり口にすることのないランチメニュー（パスタやカボチャのムース等）を嬉しそうに召し上がられていました。

4) カシオペア

4月に新卒の男性利用者1名、9月に既卒の女性利用者1名を受け入れました。また、8月末と10月末、2月末にそれぞれ男性利用者1名の計3名が退所されたため、3月末時点で計20名（男性9名、女性11名）の在籍となりました。

活動内容は、例年通り紙すきを主軸に、レジンやフェルトボールにも取り組みました。季節商品として紙すきカレンダーなども製作し、多くの方に見て頂きました。

余暇的プログラムでは、近くの店や、利用者の並行通所先に行きマドレーヌアイスなどを食べる機会も作りました。

運動プログラムでは、昨年度と比べて車での移動機会も増え、保土ヶ谷公園や大池公園に散策しにいきました。また、3月に1日外出の代替として、「料理パーティ

ー&カラオケに行こう」を行いました。

5) ミルキーウェイ

3月末時点で計8名（男性8名）の在籍となりました。

活動内容は引き続き木工を軸に行い、焼きペンの工程も利用者にお任せして、オリジナリティ溢れる製品に仕上がりました。

午後は運動不足解消の為、雨天時以外はなるべく外に出る機会を設けましたが、曜日によっては職員体制上、屋外へ出向く事が難しい日もありました。

ダンスやエアロビ等、他グループと合同のプログラムにも積極的に参加しました。

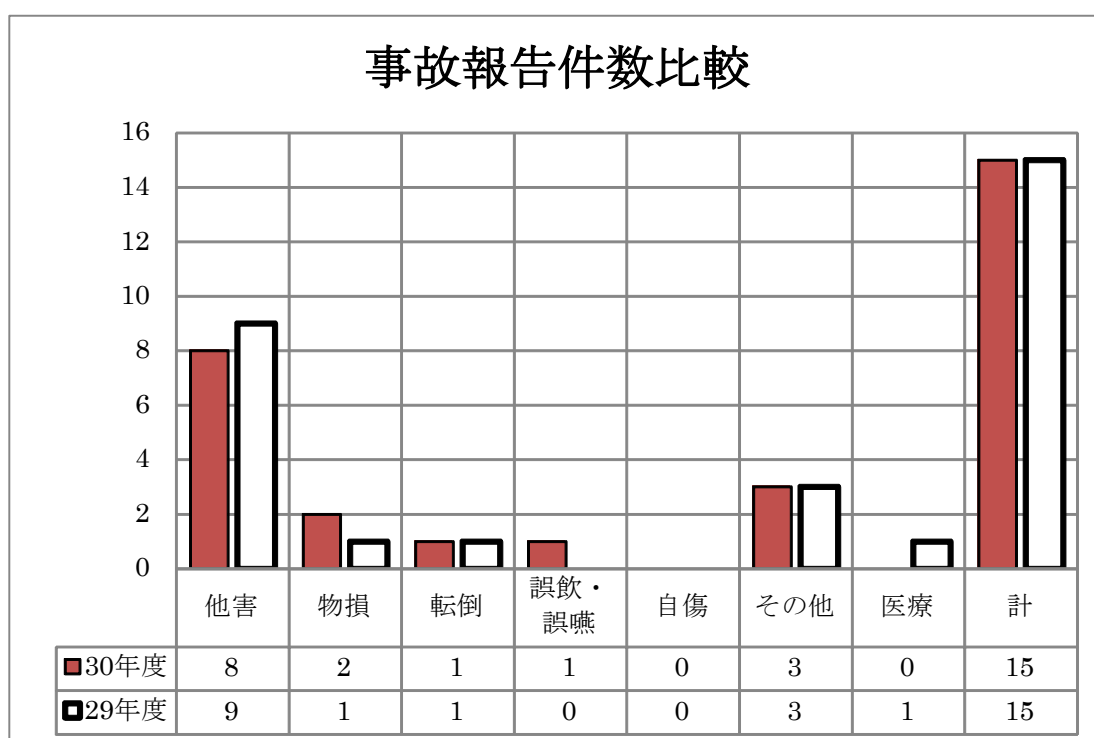
1日外出は年間2回実施し、日産スタジアムツアーとマリンタワーを楽しみました。

年間を通して振り返ると、身体機能が徐々に低下している利用者や、数年来発作が起きなかった利用者が複数回発作が起きたりと、体調面に変化のみられた1年でした。その度、職員間や看護師、ご家族、関係機関との情報共有と連携を図って大事に至る事はありませんでした。来年度も引き続き体調に留意しながら活動を行っていきます。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

計15件の事故が発生、報告されています。全体の報告件数は昨年度と変わらず、種類別に見ても昨年度と同様に他害の件数が最も多く、8件となりました。再発防止に向け、ケア会議や各グループ会議で事故の概要や今後の対策を全職員に共有していく必要があります。

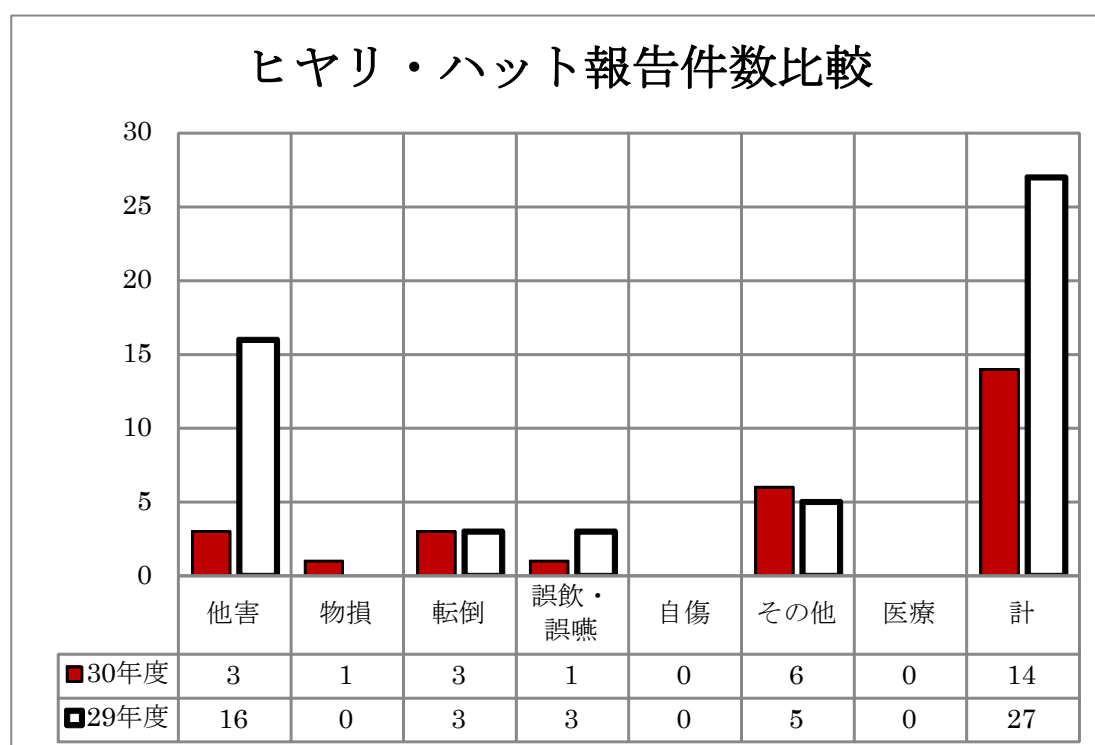


以下、事故の中から、抜粋して掲載します。

- ・送迎車で到着後、乗車したまま動けずにいた利用者に対し、後続の送迎車のことを配慮し降車を促した。促されたことによって怒り出し、職員の指に噛みついた。
→ご本人の心の機微を読み取り自ら動き出せる声掛けを行う必要がありました。また場合によっては、送迎車を一度駐車スペースに戻してから時間をかけて対応することでご本人の情緒の安定を図るべきでした。

2) ヒヤリ・ハット

計 14 件のヒヤリ・ハットが発生、報告されています。昨年度と比較して、全体の報告件数は大幅に減少しています。特に他害の件数が減りました。



以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

- ・前日の夜、自宅で排便時に出血があった為通院した所、痔だったとの事でヘモナーゼ配合錠を処方される。翌日から昼食後に服用していたが、初日は一時的に失念してしまい、昼食を終えて2階に戻ってから職員が思い出し、服用してもらう。

(5) 学習・研修参加

参加した研修は下記の通りです。

No.	月日	研修名	場所	参加者
1	4月24日	接遇・マナー研修	ウィリング横浜	水戸
2	6月28日	初任者の為の接遇研修	ウィリング横浜	水戸
3	7月2日	初任者研修 ～新卒者編～①	ウィリング横浜	水戸
	7月3日	初任者研修 ～新卒者編～②	ウィリング横浜	水戸
4	7月4日	社会福祉援助技術の基礎研修～支援とは何か～	ウィリング横浜	水戸
5	7月7日	第10回 地域活動ホーム合同研修会	横浜市開港記念会館	常勤職員
6	7月17日	伝える、伝わる記録の書き方研修	ウィリング横浜	水戸
7	12月8日	障害者地域活動ホーム、多機能型拠点看護師等会議	横浜市多機能型拠点 こまち	天野
8	2月2日	楽しく食事を続ける為の基礎知識	東戸塚地域活動ホーム ひかり	水戸
9	2月20日	介護労働者 人事労務管理セミナー チーム力アップを目指すリーダーに必要なスキル	ウィリング横浜	諏訪
10	3月6日	法人型障害者地域活動ホーム看護師等巡回相談事業	東戸塚地域活動ホーム ひかり	フェニクス・ ペガサス職員
11	3月15日	横浜市障害者虐待防止研修①	TKPガーデンシティ横浜	諏訪
	3月22日	横浜市障害者虐待防止研修②	新横浜研修センター	諏訪

2. 生活支援事業

(1) 利用実績

1) 一時ケア

利用実績は、昨年度と比べて、延べ時間が1,062.5時間減少しました。

放課後の児童デイサービス等を実施する事業所が数年前から区内・近隣区に増え、近年は就学に伴い、それらのサービスを利用することが一般的となってきました。そのため、学齢児の定期的な利用がなくなりました。

現在は週末にかけての利用依頼が多く、物理的なスペース不足や、職員の男女比のアンバランスさによる受け入れ体制の整えづらさが生まれました。また、障がい特性が多様化してきたことにより支援ポイントの幅が広がり、利用者同士の組み合わせの難しさが目立つようになりました。

【平成 30 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
件数実績<件>	111	111	120	97	103	104	85	93	93	73	74	108	1,172	97.7
時間数実績<h>	366.5	388.5	393.5	364.5	398.5	354.5	272.5	300.0	300.5	216.0	235.0	355.5	3,945.5	328.8
平均時間<h>	3.3	3.5	3.3	3.8	3.9	3.4	3.2	3.2	3.2	3.0	3.2	3.3		3.4
依頼数<件>	150	159	185	152	196	151	148	143	160	115	136	159	1,854	154.5
キャンセル数<件>	13	14	19	11	19	7	13	5	14	4	11	9	139	11.6
お断り数<件>	26	34	46	44	74	40	48	46	51	38	48	42	536	44.7

【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
件数実績<件>	116	127	145	145	141	138	144	144	139	110	117	150	1,616	135
時間数実績<h>	366.0	390.5	423.0	461.0	482.5	386.5	472.0	446.0	392.5	354.0	346.5	487.5	5,008.0	417.3
平均時間<h>	3.2	3.1	2.9	3.2	3.4	2.8	3.3	3.1	2.8	3.2	3.0	3.2		3.1
依頼数<件>	153	165	193	183	192	184	180	175	162	135	148	182	2,052	171.0
キャンセル数<件>	23	15	20	23	12	16	10	11	11	18	19	11	189	15.8
お断り数<件>	14	23	28	15	39	30	26	20	12	7	12	21	247	20.6

2) ショートステイ

今年度から、ショートステイに関してはスプリンクラーが設置してある3階のみの使用となっています。

利用実績は、昨年度と比べて、延べ泊数が45泊減少しました。

現在は金曜日と土曜日の利用依頼が多く、物理的な居室不足が発生したり、翌月の勤務シフト確定後の職員配置の調整が困難となりお断りをするケースが増加しました。また、障がい特性が多様化してきたことにより支援ポイントの幅が広がり、利用者同士の組み合わせの難しさが目立つようになりました。

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
泊数実績<泊>	44	38	44	36	47	40	38	43	40	29	38	45	482	40.2
緊急<泊>	4	0	2	0	0	0	0	4	3	0	1	3	17	1.4
依頼数<件>	64	60	71	62	65	61	60	61	59	42	61	60	726	60.5
キャンセル数<件>	2	8	5	1	2	5	5	1	3	2	6	3	43	3.6
お断り数<件>	18	14	22	25	16	16	17	17	16	11	17	12	201	16.8

【平成29年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
泊数実績<泊>	39	45	46	49	43	49	44	49	47	31	39	46	527	43.9
緊急<泊>	0	2	2	3	0	1	1	0	2	0	0	1	12	1.0
依頼数<件>	49	61	62	68	65	73	57	60	62	46	55	59	717	59.8
キャンセル数<件>	7	4	3	8	7	2	3	3	6	6	7	3	59	4.9
お断り数<件>	3	12	13	11	15	22	10	8	10	9	9	10	132	11.0

(2) 登録者数の動向と傾向

新規登録者数は、51名でした。現在の総登録者数は963名（登録された住所地から転居され、転居先不明者106名を除く）となります。昨年度に引き続き、基幹相談支援センターを通しての登録がありました。

各月の新規登録者は下記の通りです。

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録者<人>	5	7	4	1	3	7	2	3	5	7	3	4	51
未就学児<人>	2	1	1	0	2	4	1	2	2	3	3	2	23
18歳以下<人>	1	0	1	1	1	0	1	1	1	3	0	2	12
18歳以上<人>	2	6	2	0	0	3	0	0	2	1	0	0	16
戸塚区内<人>	4	5	2	1	2	5	2	3	5	6	1	4	40
区外<人>	1	2	2	0	1	2	0	0	0	1	2	0	11

【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録者<人>	4	6	3	5	6	4	4	5	7	3	2	4	53
未就学児<人>	0	3	0	1	2	2	0	3	3	2	1	3	20
18歳以下<人>	3	0	0	2	2	1	3	1	2	1	0	0	15
18歳以上<人>	1	3	3	2	2	1	1	1	2	0	1	1	18
戸塚区内<人>	4	5	2	4	4	2	4	5	4	3	2	2	41
区外<人>	0	1	1	1	2	2	0	0	3	0	0	2	12

(3) 支援内容

“遊び”を通して、利用者が持っている能力を最大限に発揮し、それを生活の場面に般化することができるよう支援しました。そのために、登録面談の際に、通学先や通所先での利用者の取り組みや課題を伺ったり、ご利用の都度、現在、困っていることや伸ばしたい部分をご家族から教えていただくことで、ニーズに直結した支援と、利用者の成長に合わせた支援を行うことができました。

ショートステイにおいては、良眠の確保を第一に、ADL 面の支援や利用者のニーズに合わせて、生活面の支援（食器洗い、寝具の準備等）を行いました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

事故 2 件（他害 1 件、自傷 1 件）が発生しました。

以下、事故の内容を掲載しています。

- ・支援にあたる職員が入れ替わる際、職員の顔を平手で叩き、職員の目に利用者の指が入る。
→職員が前方から近づいてきたことで、利用者の緊張を強めたと思われます。利用者の心理状態を考えることを怠らず、状態に合わせた環境設定を心掛けます。
- ・深夜にトイレで、左腕を自傷（リストカット）する。
→ADL 等自立していて、ご本人の所持品やトイレ内での様子の把握が難しい状況にありました。情緒が不安定な様子が見られた際は、状態に合わせた環境設定を行い、複数の職員で支援に入ります。

2) ヒヤリ・ハット

ヒヤリ・ハット 1 件（受付連絡ミス）が発生しました。

以下、ヒヤリ・ハットの内容を掲載します。

- ・一時ケアの予約で、こちらで予約を入れた時間と開始時間に食い違いが生じた。

(6) 部門間連携

直接支援に関しては、日中活動部にも協力してもらい対応しました。発作や食物アレルギー等、特別な配慮が必要な利用者については、受け入れの前に、申し送りを行いました。

昨年度に引き続き、相談支援部経由の登録がありました。相談支援部で関わっている既登録者については、適宜、連携をとることにより、利用者の生活状況や通学・通所状況等も捉えるように努めました。

一方で、日中活動事業の見学や通所希望がある登録者に関しては、相談支援部あるいは日中活動部に結びました。また、ケア会議で得た情報の共有を行いました。

なお、緊急利用の受け入れの際には、日中活動部だけではなく相談支援部にも協力を依頼し、受け入れ体制を整えるように努めました。

(7) その他

昨年度、登録の際に記入していただくフェイスシートに、利用者の顔写真を貼付してもらうことを決定しました。主に災害時等に使用することを目的としています。昨年度末に全登録者に情報更新用のフェイスシートを送付・配布し、返信の際に写真を同封してもらいました。

3. 相談支援事業

(1) 基幹相談支援センター

1) 総合的・専門的な相談支援の実施

基幹相談支援センターとして3年が経過しました。認知度が上がり、ご本人やご家族だけではなく支援者・関係機関からの相談、休日や夜間の相談も増加傾向にあります。在宅ケースにおける二次相談支援機関との連携、触法ケースにおける弁護士会との連携など、より幅広い支援が求められるようになりました。また、就労支援センターや特別支援学校、その他様々な機関からの研修依頼や会議の参加要請も入るようになりました。

区役所・生活支援センター・基幹相談支援センターの3機関連携の場である「戸塚区定例カンファレンス」を活用して、区内18地区連合の地区分析を実施しました。作成した共通ツールを今後の相談支援に展開させたいと考えます。

<相談件数>

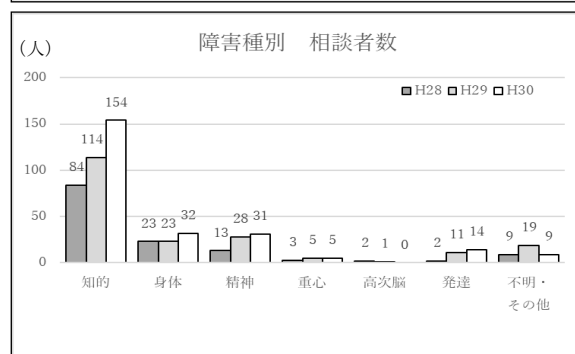
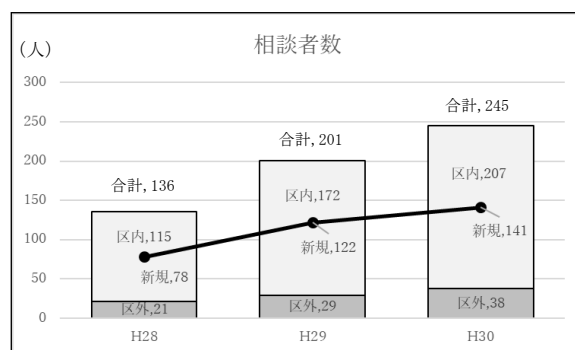
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
30年度	93	98	81	60	79	53	103	99	145	165	164	149	1,289
29年度	64	62	60	75	58	82	62	78	77	84	89	112	903

<ケア会議開催状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
30年度	4	7	7	4	2	6	4	5	6	11	10	12	78
29年度	1	5	5	7	5	2	6	4	5	3	7	6	56

今年度の相談者数は245名、内新規の方が141名となりました。いずれも、基幹相談支援センター初年度と比較して2倍弱にまで増加しています。障害種別の内訳としては、精神障害や発達障害の相談者数が一定の割合で落ち着き、前年から大きな変化はありませんでした。

相談内容については、不安解消のため特定の方からの相談件数が極端に増加したケース、弁護士との連携が必要な触法ケース、近隣トラブルケース、行き場がない在宅ケース、手帳未取得ケース、地域ケアプラザとの連携が必要なケースなど、今まで以上に多岐に渡りました。



個別ケースへの対応は今後も業務の要です。基幹相談支援センターとしてどのような相談も受け止めるにあたり、相談員のスキルアップはもちろん、社会資源との連携や地域全体で支える仕組みづくりの必要性をより一層感じました。

2) 地域の相談支援体制の強化の取組

指定特定相談支援事業所から計画相談に関わる個別ケースについて相談を受け、同行訪問や会議の参加等を行いました。

自立支援協議会「相談支援部会」を活用し、計画相談支援における各事業所の体制や今後の見通し・課題の共有、書類作成のミニ講座等を実施しました。また、1月の「担当者会」のテーマを計画相談支援とし、相談支援部会のメンバーで企画・運営を行うことで、相談支援専門員の主体的な参画に繋がり、地域への啓発の重要性を再認識する機会となりました。

南部ブロックにて指定特定相談支援事業所向けの事例検討会を実施し、区内指定特定相談支援事業所も参加しました。

3) 地域移行・地域定着の促進の取組

栄区生活支援センター・栄区基幹相談支援センター・戸塚区生活支援センターと「退院サポート事業検討会」を実施し、ケースを通して生活支援センターとの協働や地域移行へ向けた支援体制の構築を検討しました。

自立支援協議会「精神保健福祉分科会」にて、啓発の一環として地域向けの研修会や事業所紹介・ワークショップ等を実施しました。

地域ケアプラザの「あったまり場」に参加し、基幹相談支援センターの周知および個別相談に対応しました。

4) 権利擁護・虐待の防止

「成年後見サポートネット」に参加し、成年後見制度や権利擁護について学習機会を得ました。

自立支援協議会「担当者会」にて、弁護士による障がい者が巻き込まれやすい法律問題の講義、差別解消法を切り口とした障がい当事者による講演を実施しました。

虐待防止への取り組みの一環として、子育てや居場所支援を行う団体の見学や会議への参加を行い、関係性を構築しました。

5) その他地域の状況に応じた独自の取組

自立支援協議会の取り組みとして下記を実施しました。

地域を創る分科会	地域ケアプラザ職員向けの障害制度説明会、交流会等を実施。
地域啓発分科会	イオン東戸塚にて「戸塚区障がい者美術館計画“みんながっていいんだよ”」を継続実施。障がい当事者の美術作品を常設展示。
児童分科会	“重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループ”にて、「外出」をテーマに保護者とのディスカッションを実施。
リスクを考える分科会	災害時の要援護者対策についての紙芝居を活用し、出前講座を実施。
精神保健福祉分科会	地域向けの勉強会、事業所紹介、ワークショップ等を実施。

(2) 計画相談支援

今年度は7名の計画相談支援を実施しました。新規のご依頼を受けることは依然として難しい状況で、必要に応じて他事業所の受け入れについての状況確認や紹介を行いました。今後、計画相談支援を担える人材を確保するため、法人内職員が相談支援従事者初任者研修を受講しました。

以下の表は計画相談支援を実施している7名の年間対応回数です。ご本人の状況変化等により、モニタリング月以外での対応が必要になった方も多く、年間を通して動きがありました。

電話	訪問	来所	その他	合計
108	31	6	36	181

(3) 関係機関・関係施設との連携・協力

1) コーディネーター業務

教育機関からの施設見学や施設研修（社会体験）の依頼を受け、日中活動部との調整や連携した対応を行いました。

川上北小学校4年生の施設見学は今年度で6回目となりました。地域活動ホームの紹介、グループホームでの生活について利用者インタビュー動画を交えた紹介、作業の体験を行いました。また、利用者が小学校の4年生クラスを訪問して夏祭りの宣伝をし、夏祭りでは4年生全生徒が描いたイラストを会場に装飾しました。

昨年度に引き続き、個別支援級の生徒と利用者の交流も行いました。お茶会、パン・クッキー作りでの交流の他、川上北小学校創立50周年を記念し、50周年マスコットキャラクターのクッキーを利用者が作りました。

見学や体験を通して、生徒と利用者の交流の機会が創出され、お互いが地域で暮らす身近な存在であると実感できたのではないかと思います。

2) 定例会議＜外部機関・団体＞

区役所、生活支援センター、基幹相談支援センターの3機関連携の場として「戸塚区定例カンファレンス」を毎月開催し、困難ケースについての共有と役割分担の他、戸塚区全体に関わる事業について共有と協議を行っています。また、区内の計画相談支援の実施状況および指定特定相談支援事業所の受け入れ体制等を共有しました。

その他、以下の会議に参加し関係機関との連携や研鑽の機会としています。

会議名	主な参加機関	開催頻度
戸塚区定例カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区役所 高齢・障害支援課 身障・知的担当および精神保健福祉担当 ・戸塚区役所 こども家庭支援課 ・戸塚区生活支援センター 	毎月1回
基幹相談支援センター連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉局 障害福祉課 ・基幹相談支援センター 主任相談員 	毎月1回
発達障害特定相談 全体ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援センター ・戸塚区生活支援センター ・戸塚就労支援センター ・戸塚区役所 高齢障害支援課 	3ヶ月に1回
成年後見サポートネット	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区役所 高齢・障害支援課 ・区社協あんしんセンター ・地域包括支援センター ・神奈川県弁護士会 ・リーガルサポート神奈川県支部（司法書士会） ・ぱあとなあ神奈川（社会福祉士会） ・コスモス成年後見サポートセンター神奈川支部（行政書士会） ・横浜市市民後見人バンク登録者 	3ヶ月に1回
退院サポート事業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区生活支援センター ・栄区基幹相談支援センター ・戸塚区生活支援センター 	2ヶ月に1回

（４）部門内、部門間連携

部門内の連携として、相談支援部の会議を毎月1回開催しました。情報共有の他、困難ケースについては施設長や他の相談員からのアドバイスを受けながら支援方針を確認しました。また、サイボウズを活用し各ケースの進捗を全相談員が共有しました。

部門間の連携では、実習生の受け入れ、施設見学、体験実習、デイサービス利用契約などについて、日中活動部と連携して進めました。緊急に入る相談では、一時ケア・ショートステイに繋ぐ必要のあるケースも多く、生活支援部と連携しながら対応しました。

（５）戸塚区地域自立支援協議会の運営

自立支援協議会が立ち上がり、10年目を迎えました。

昨年度に引き続き、6つの分科会・2つの連絡会で構成されています。分科会・連絡会活動の活発化を受け、「担当者会」は昨年度から年間3回の活動としています。

「担当者会」では、6月は「リスクを考える分科会」による災害時の要援護者対策の出前講座実演と弁護士より障がい者が巻き込まれやすい法律問題の講義、10月は差別解消法を切り口に障がい当事者からの講演、1月は計画相談をテーマに相談支援部による講義と事例発表・グループワークを行いました。

来年度、横浜市区障害者自立支援協議会設置運営要領が改正される見込みであることを受け、戸塚区地域自立支援協議会の今後の在り方について検討しました。来年度中に組織の再構築を行う予定です。

<活動内容>

会議名	活動概要	参加者	
代表者会	今年度の担当者会・分科会・連絡会活動報告、来年度の自立支援協議会の方向性と組織再編についての確認と承認。	中瀬 荒 芦名 松木 (宮坂)	
事務局会議	担当者会の内容確認。各分科会・連絡会の活動状況報告。	中瀬 荒 芦名 松木 (宮坂)	
担当者会	全機関が集う場を活用し、周辺領域とつながり横断的な関りを創造することを目的に3回開催。 ①リスクを考える分科会の出前講座実演、弁護士による法律問題の講義 ②差別解消法を切り口に障がい当事者3名(内部・知的・発達)の講演 ③計画相談支援をテーマに講義と事例発表・グループワーク	中瀬 荒 芦名 松木 林 諏訪 (宮坂)	
分科会	地域を創る分科会	地域状況・課題の把握、地域連携システムづくりを目的に下記を実施。 ①地域ケアプラザ職員懇談会。 ②地域ケアプラザ・地区センターにて、障害福祉制度および事業所紹介。 ③一般および当事者対象のミニ講座&相談会。 ④地域ケアプラザの“あったまり場”へ参加。	(宮坂) (松丘)
	地域啓発分科会	イオンスタイル東戸塚での「戸塚区障がい者美術館計画“みんなちがっていいんだよ”」(当事者美術作品常設展示)を継続開催。作品の入替、展示スペース増設、感謝状贈呈を実施。	野口 水戸
	リスクを考える分科会	災害時の要援護者対策についての紙芝居を活用した出前講座を継続実施。障害福祉事業所にとってのリスクについて多角的に検討。	平 (宮坂)
	児童分科会	地域の児童と家庭に関わる機関との連携をテーマに下記を実施。 ①事例検討 ②児童分科会の広報チラシ作成 ③重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループの開催 ④とことこフェスタを通じた啓発活動	芦名
	精神保健福祉分科会	精神障害分野の地域啓発活動として、下記を実施。 ①地域向けの勉強会・事業所紹介・ワークショップの実施。 ②地域ケアプラザの“あったまり場”に参加し、精神分野の啓発活動。	松木 林 (宮坂)
	相談支援部会	各事業所の現状と今後の見通しの共有、書類作成におけるミニ講座の実施。1月の担当者会を企画・運営。計画相談をテーマに、講義・事例発表・グループディスカッションを実施。	荒 芦名 松木
連絡会	グループホーム連絡会	「入居者の高齢化」をテーマに意見・情報交換を実施。グループホーム職員向けに「食事(摂食・嚥下)」の研修を実施。当事者活動として、ひかりの夏祭りに当事者・支援者で参加。	三野
	日中情報交換会	特別支援学校・養護学校教員との進路に関する情報共有と意見交換を実施。就労と生活介護で各委員会を開催し、それぞれの課題について意見交換。事業所見学会(2事業所)の実施。	諏訪 二木 荒

(6) 学習・研修参加

相談員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No.	月	研修名	場所	参加者
1	6月	施策動向研修会「改正・障害者総合支援法の概要」	横浜ラポール	芦名
2		相談支援研修Ⅱ	横浜ラポール	大石
3		自殺対策基礎研修	開港記念会館	大石
4	7月	わが街よこはまの相談支援を考える！	開港記念会館	中瀬 芦名 林
5		戸塚療育セミナー	戸塚地域療育センター	大石
6	9月	強度行動障害支援者養成実践研修	平塚商工会議所	大石
7	10月	強度行動障害支援力向上研修	横浜市技能文化会館	林
8		計画相談シンポジウム 「障害者の未来をつなぐ計画相談の運営とは」	横浜市健康福祉総合センター	中瀬 荒 芦名 松木
9	11月	旭区医ケアシンポジウム	旭公会堂	芦名
10		地域での発達障害支援を考えよう	テレコムセンタービル	松木
11		相談支援従事者現任研修（11～12月）	ウィリング横浜	荒
12	12月	相談支援従事者現任研修（12～1月）	ウィリング横浜	松木
13		相談支援従事者実践研修Ⅱ	横浜ラポール	林
14	1月	南部ブロック計画相談研修	磯子区役所	松木 大石 林
15	2月	戸塚区地域施設間連携促進研修会	戸塚区役所	松木
16		TEACCH プログラム研究会 実践研修大会 in 山梨	山梨県立図書館	松木

4. おもちゃ文庫事業

(1) 利用実績

【平成 30 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	20	21	21	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241
子ども	236	220	295	361	372	275	421	327	249	295	317	371	3,739
親	198	195	269	307	312	254	394	295	229	270	272	306	3,301
合計(月)	434	415	564	668	684	529	815	622	478	565	589	677	7,040

【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	20	20	22	20	20	20	22	20	20	19	19	21	243
子ども	236	232	252	337	268	241	347	281	242	232	234	339	3,241
親	211	209	223	283	214	229	312	250	204	192	209	286	2,822
合計(月)	447	441	475	620	482	470	659	531	446	424	443	625	6,063

上半期は日を追うごとに気温が上昇し外遊びが出来ない状況（高温注意報）の日もあり、熱中症予防のため室内のおもちゃ文庫で遊ぼうと1歳～2歳児が多く来所されました。また、夏休みに入って3歳～6歳児の利用も増え、1歳～6歳児と一緒に遊ぶ機会に恵まれました。

下半期は気温の変動が大きく、寒い日は来所者が多めで「外遊びより室内遊び」を選び体調管理をされているようでした。

今年度も近隣の療育センターに通っている親子が多く利用されました。日中のプログラムとして先生と一緒に遊ぶ場合や個別の利用もあり、おもちゃ文庫は地域の親子が自然に交流できる場所になっています。また当施設の相談面接後や一時ケアの利用後に親子がおもちゃ文庫に寄り、居合わせた親子と一緒に遊んでいます。職員が母親と話すこともあり、どの親子も笑顔で過ごして帰られています。今後も親子の気持ちに寄り添っていききたいと思います。

(2) 課題・検討事項

- ・おもちゃ文庫は遊びを生活の中の一つとして捉え、挨拶、遊具を出す、片付ける、他の親子との交流など全ての関わりを支援しました。子どもがおもちゃを手に取るだけで遊びに繋がらない場面では、親子間へ遊びのヒントを出すタイミング、「おもしろいな」と気持ちが動くようなアプローチを試みました。
- ・最近では地域のつながりが減少し、おもちゃ文庫などの遊び場が異年齢の子どもとの出会いの場になっています。「小さい子がいるから気を付けてね」「優しくね」と

ご利用者も声をかけて下さるので、大きい子の遊びに小さい子が好奇心いっぱいの目を向け模倣しています。子ども同士の関わりが遊ぶ意欲を育て、成長を促す大切な体験になりました。今後も安全に気をつけて異年齢交流を支援します。

- ・子育て期の親にとって、家庭では母と子が1対1で過ごすことが多く、おもちゃ文庫を利用することで親がほっとできる、気持ちの開放を感じるのも大切です。親の気持ちを受け止め、職員が子どもの遊びたい要求に応じ、次に親も巻き込んで遊ぶと親子の充足感に繋がります。おもちゃ文庫は、孤立しがちな子育てから親が気持ちを開放するきっかけをサポートできる遊び場になっています。

(3) 遊具・絵本・環境の整備

- ・今年度は特に遊具のメンテナンスに力を入れて取り組みました。10年以上使用している木製遊具は長く愛用していただける反面、乾燥によるひび割れやささくれが生じています。木のおもちゃの特徴を生かし、適切な修理を心がけケガの原因にならないよう細心の注意を払い実施しました。
- ・冬季は風邪の症状が見受けられた場合、入室時に声をかけて学級閉鎖時の入室をご遠慮いただく等、感染源にならないよう予防しました。衛生面では可能な範囲で遊具・備品を除菌しました。利用者も子どもが口に入れたおもちゃを拭いて手洗いやマスクをする等、遊び場のマナーが向上しました。
- ・常設遊具の他に年齢に応じた遊具の入れ替えを行いました。個々で楽しめるパズル等は段階別に提供することで、保護者から「遊ぶ姿から子どもの興味や成長を把握できました」という声がありました。
- ・遊具は繰り返し遊びたくなるもの、シンプルで分かりやすいものを選びました。絵本についても同様ですが、誰もが幅広く絵本や遊具に出会い、興味や発想が豊かになることを願って選定しました。
- ・遊具の紛失や破損については少数ですが発生しました。紛失の場合は来所者に声を掛け掲示を含めお知らせし、遊具を大切にしている姿勢を皆さんにアピールしました。また、破損して修理不能と判断された遊具・絵本の買い替えや、利用者が多い1歳～2歳児の遊びを想定し、新しい遊具・絵本の購入を検討しました。

(4) その他

- ・おもちゃ文庫利用者対象の地域交流事業を年5回実施しました。
- ・東戸塚地区センターまつりが開催された土曜日は、おもちゃ文庫を開放しました。
- ・大型遊具（木の砂場）の年1回掃除とメンテナンス（随時）を実施しました。
- ・施設の避難訓練に年2回参加しました。
- ・近隣の子育て支援拠点「とつとの芽」と、「とつとの芽サテライト」を見学しました。

5. 余暇活動支援事業

計 31 回の余暇活動を実施しました。小学生対象が 3 回、中高生対象が 5 回、小中高生対象が 2 回、成人対象が 21 回でした。

小学生・中高生対象の活動は長期休み（夏休み・冬休み）を中心に開催し、昨年度に応募の少なかった「屋上プール」を「カレーパーティー」に変更して実施しました。成人対象の活動は、外出の余暇を増やすと同時に人気のある「くっきんぐぴかり」を前期、中期、後期に分けて回数を増やしました。

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
くっきんぐぴかり 〈前期〉 (計 3 回)	5 月 18 日	成人	18 名	5 名	5 名	0 名	3 名
	6 月 15 日				5 名	0 名	3 名
	7 月 13 日				5 名	0 名	2 名
中華を食べよう	6 月 9 日	成人	23 名	5 名	5 名	0 名	0 名
カレーパーティー	7 月 28 日	小学生	8 名	8 名	3 名	1 名	0 名
	8 月 4 日				4 名	0 名	0 名
テラスで晩ごはん	7 月 26 日	中高生	12 名	12 名	4 名	0 名	0 名
	7 月 27 日				3 名	1 名	0 名
	8 月 9 日				4 名	0 名	0 名
中華を食べよう	9 月 9 日	中高生	4 名	4 名	4 名	0 名	0 名
水族館に行こう	9 月 29 日	中高生	6 名	5 名	4 名	1 名	0 名
動物園に行こう	10 月 6 日	小学生	5 名	5 名	3 名	2 名	1 名
くっきんぐぴかり 〈中期〉 (計 3 回)	9 月 14 日	成人	12 名	5 名	4 名	1 名	3 名
	10 月 12 日				5 名	0 名	3 名
	11 月 9 日				4 名	1 名	3 名
サタデーぴかり 〈前期〉 (計 3 回)	10 月 20 日	成人	10 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	11 月 24 日				4 名	1 名	0 名
	12 月 15 日				5 名	0 名	0 名
カップヌードル ミュージアム	11 月 11 日	成人	12 名	5 名	5 名	0 名	0 名
クリスマス会	12 月 23 日	小中高	15 名	4 名	3 名	1 名	0 名
	12 月 23 日	成人	16 名	4 名	4 名	0 名	0 名
くっきんぐぴかり 〈後期〉 (計 3 回)	12 月 7 日	成人	12 名	5 名	5 名	0 名	3 名
	1 月 11 日				5 名	0 名	3 名
	2 月 8 日				4 名	1 名	3 名
新年会	1 月 5 日	小中高	7 名	5 名	4 名	1 名	0 名
	1 月 5 日	成人	11 名	5 名	4 名	1 名	0 名

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
サタデーぴかり 〈後期〉 (計3回)	1月26日	成人	5名	5名	2名	3名	0名
	2月23日				4名	1名	0名
	3月23日				5名	0名	0名
みんなでカラオケ	2月16日	成人	7名	5名	5名	0名	0名
中華を食べよう	3月3日	成人	5名	4名	4名	0名	0名

6. 地域交流事業

(1) 貸室利用実績

【平成 30 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	25	21	26	31	16	24	28	32	13	21	28	25	290
利用人数	228	191	244	299	148	218	269	293	148	193	293	256	2,780

【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	28	27	24	22	20	29	23	25	25	25	23	21	292
利用人数	257	242	211	199	174	256	211	216	227	236	213	188	2,630

(2) 体験参加型イベント

おもちゃ文庫をご利用の親子を対象に「工作とお話しの会」を5回、開催しました。集団は苦手、という親子も複数回参加することで、苦手意識から楽しみに変わっていくことが感じられました。

開催月	イベント内容	参加
6月	ハッピーカード	5組
7月	七夕	5組
10月	ハロウィン	6組
12月	クリスマス	5組
2月	バレンタイン	5組

(3) 他施設・機関主催行事への参加

近隣施設のお祭りや地域のイベントに参加しました。

開催月	施設・参加行事
6月	平戸地域ケアプラザ(自主製品・パン販売)
10月	戸塚区ふれあい文化祭(作品展示)
11月	戸塚ふれあい区民まつり(自主製品・パン販売)

(4) ひかり主催行事

8月に「ぴっかり夏祭り」、12月に「冬フェス」を開催しました。

今年度の「ぴっかり夏祭り」は、台風一過の晴天に恵まれましたが強風の影響も受けました。会場の設営等に遅れが出ましたが、実行委員を中心に臨機応変な対応を取ることができました。地域密着型シンガーソングライターのライブ、戸塚区のキャラクターや本格的なコスプレイヤーの登場、地域のボランティアによる盆踊り等、恒例のイベントを楽しみに多くのお客さまが来場されました。

冬の音楽イベントとして「冬フェス」を開催しました。特別支援学校の教員によるバンドは毎年好評で、沢山のお客さまで盛り上がりました。昨年度に続き視覚障がいバイオリニストの他、地域のシンガーソングライターに初出演していただきました。

7. 各委員会

(1) 広報委員会

広報誌は、1回（11月）に発行しました。内容は、夏祭り・宿泊旅行・冬フェスなどのイベントや日中活動のニュースを掲載しました。日中活動利用者や一時ケア/ショートステイ登録者を含め、発行部数も1,000部を超えました。

ホームページは、リニューアルして3年目を迎え、ブログでのお知らせで、夏祭り・冬フェスの告知を行い、昨年度の決算報告・事業報告の資料を追加しました。また、求人募集などの情報発信に利用し、セキュリティ面での強化のため、スパムメールなどを受けないスタイルに変えています。

(2) 保健・衛生委員会

職員・利用者の健康診断を実施しました。宿直業務のある職員については、年2回の健康診断を行いました。

夏季には熱中症予防対策として、送迎車内に経口補水液とスポーツドリンクを常備しました。また、体調不良者に適切な水分の補給を促すため年間を通して、経口補水液を常備しました。

冬季には職員・日中活動利用者を対象に、インフルエンザの予防接種を実施すると共に、11月から3月にかけて検温を行うことで館内の感染拡大の予防に努めました。今年度はインフルエンザ罹患者が多く、都度お知らせを配布する事で施設外での感染予防にも繋げました。また、「感染症対策指導者養成研修」に参加し、学んだことを職員会議で報告する事で職員全体での予防意識も高まりました。

その他には、清掃業務を委託している業者に、月1回のペースで施設の階段や床・ベランダ周りの排水口等を清掃していただきました。

(3) リスクマネジメント委員会

9月に火災を想定した避難訓練と消火器訓練、3月に地震を想定した避難訓練と消火器訓練を実施しました。ホープ川上に関する訓練も同様の訓練を実施しました。3月の訓練では、消防署員立ち合いのもと、パート職員を対象にした消火器訓練、AED講習も行いました。また、新人職員向けの夜間時避難訓練・事務所にある複合火災受信機の使用法や作動時の対応についての研修を行いました。

その他、福祉避難所応急備蓄物資に関しては消費期限の確認や処分、補充を行いました。施設利用者向けの災害時用備蓄品の整備も行いました。また、2F倉庫の棚、2Fと3Fにある冷蔵庫に転倒防止用の伸縮棒を設置しました。

(4) 給食委員会

2 ヶ月毎に委員会を開催し、利用者の食事に関する情報交換、内容の充実、行事の際の食事内容等について検討しました。

11月に保護者対象の試食会を実施し、給食について様々な感想、要望を聞く事ができました。

2 ヶ月毎に募集するリクエストメニューは継続し、利用者の希望をメニューに反映する事ができました。

Ⅱ. ラフォーレさくら

1. 利用実績（定員 20 名 在籍人数 16 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	20	21	21	21	20	19	22	22	19	19	21	20	245
延利用者数	214	222	228	219	210	189	217	236	195	188	204	200	2,522
利用人数/日	10.7	10.5	10.8	10.4	10.5	9.9	9.8	10.7	10.2	9.8	9.7	10.0	—
送迎利用者数	27	27	33	36	37	30	34	36	30	30	30	31	381

今年度は、利用者 17 名で活動を行ってきましたが、一般就労をした女性 1 名が下半期に退所となり 3 月末時点で計 16 名（男性 8 名、女性 8 名）の在籍となりました。

健康管理の取り組みとして、障害者支援センターの支援事業を利用し、看護師や理学療法士に訪問していただく巡回相談を行いました。また、福祉保健課による口腔ケア講座を開催し、染出し体験を通してブラッシングの指導を歯科衛生士より受けました。

日常的な健康面を配慮しつつ、ますます高齢化していく利用者について、作業の組み立て、過ごし方、動きの異なる若い利用者と一緒に、少しでも多くの活動に参加できるよう様々な体験教室や利用者向け講習会などのプログラムを開催してきました。その結果、「参加したプログラムが楽しかった」として面談時に意見が上がっています。

2. 日中活動

(1) 作業について

昨年度と同様、新鮮卵の仕入れと販売、消しゴムその他の袋詰めや、自動車部品などの下請作業、そして、自分達が作った製品販売や喫茶でコーヒーを運ぶ「にこにこみなみ」での活動を行ってきました。積極的に各種イベントにも参加し、一丸となって販売準備を進めた結果、売上げ向上につながりました。今後、更なる向上を目指し取り組んでいきます。

定期的開催した絵手紙教室で得た知識が、自主製品作りや卵ケース、ポスティング用ポスターなどにも大いに反映されるようになりました。当初は、具体物を示しても全く描くことができない利用者が多かったのですが、今では表現することを楽しみ、気軽に取り組むことができるようになりました。

今年度も新たな自主製品開発や制作を目的とした体験を計画し、輪編み教室を開催しました。外部講師より技術を学び、ネックウォーマーや帽子にもなる製品が完成しました。すでに受注も受け、仕上げが終わった利用者から順次編み始めています。出来上がった作品は、社会資源に展示し、鑑賞会を行います。

(2) 生活プログラムについて

各種体験教室では、利用者から希望のあった陶芸やフェイクスイーツ作りを取り入れました。出来上がった茶碗のお披露目会を開催し、実際に昼食で使ってみました。また、下請作業でお世話になっている業者のご好意で、ヴェネチア号に乗船し大岡川クルーズを楽しみました。桜の開花時期からずれてしまいましたが、普段見ることの出来ない川からのロケーションを堪能し、低い橋の下をいくつも通り抜けた航路に大興奮でした。収穫体験として企画した潮干狩りは、天候にも恵まれ大量にあさりを採ることができました。そして、1年中イチゴ狩りができる「東京ストロベリーパーク」でイチゴの美味しさや魅力を研究している施設を楽しみました。

他施設で定期的に行われている「笑顔表情筋レッスン」に参加し、顔ヨガを行いました。ウォーキングをしながら現地まで向かい、手軽な運動にもなっています。

開催年月	プログラム内容
平成 30 年	4月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・陶芸 ・屋上菜園 ・歯科検診 ・大岡川遊覧 ・作品展鑑賞会 ・利用者向け講習会 ・Tシャツしぼり染め体験
	5月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・陶芸 ・屋上菜園 ・収穫体験（潮干狩り） ・ふれあいスポーツ大会 ・けんこう講座 ・利用者向け講習会 ・日帰り旅行（品川アクアパーク）
	6月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・ふくしま祭り ・陶芸 ・屋上菜園 ・利用者向け講習会 ・けんこう講座 ・天然水を使ったかき氷を食べよう（一区切りの会）
	7月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・陶芸茶碗お披露目会 ・陶芸 ・屋上菜園 ・利用者向け講習会
	8月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・陶芸 ・屋上菜園 ・健康診断 ・利用者向け講習会 ・ひかりプレ夏祭り
	9月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・けんこう講座 ・屋上菜園 ・利用者向け講習会 ・レインボーフェスタみなみ
	10月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・月餅づくり ・黒豆味噌づくり ・利用者向け講習会 ・巡回相談（理学療法士） ・赤い羽根街頭活動
	11月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・けんこう講座 ・口腔ケア講座 ・利用者向け講習会 ・本大岡地区みかん狩り
12月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・利用者向け講習会 ・けんこう講座 ・日帰り旅行（東京ストロベリーパーク） ・忘年会	
平成 31 年	1月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・けんこう講座 ・屋上菜園 ・利用者向け講習会
	2月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・巡回相談（理学療法士） ・利用者向け講習会 ・笑顔表情筋レッスン（ぼれぼれ）
	3月 ・機織り講習 ・輪編み教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・外出レク（スシロー） ・利用者向け講習会 ・笑顔表情筋レッスン（ぼれぼれ）

3. 地域交流について

けんこう講座、地区主催行事などに参加しました。イベントへの協力、設備提供、体験教室などの行事を通して、地域住民との相互理解の構築となりました。

開催年月	行事	場所	参加者
平成 30 年	5月	けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 神奈川県エアロビック連盟
		ふれあいスポーツ大会	横浜市三ツ沢公園 補助競技場 横浜市心身障害児者を守る会連盟
	6月	ふくしまつり	井土ヶ谷公園 南世話焼きグループパンジー 南家事介護グループさざん 移動サービスららむーぶ南
		けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜
	8月	若宮神社祭礼	本大岡地区 地域住民
	9月	けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜
		防災拠点訓練	大岡小学校 本大岡14町内会
		レインボーフェスタ	どんとこいみなみ レインボーフェスタ実行委員会
	10月	赤い羽根街頭活動	弘明寺商店街 南区作業所連絡会
		月餅づくり体験	ラフォーレさくら 地域住民
		味噌づくり体験	ラフォーレさくら 地域住民
	11月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜・六ッ川中学校
		みかん狩り	金沢文庫 本大岡地区町内会
		収穫祭	大岡小学校 本大岡地区町内会
		職業体験	ラフォーレさくら 六ッ川中学校
	12月	福祉の未来を考える集い	横浜公園 市内作業所・活動ホーム グループホーム・当事者・家族・職員
	けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜	
平成 31 年	1月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター 南区作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜
		わっしょいフェスティバル	南公会堂 横浜南陵ロータリークラブ 南区障害児者団体連絡会

開催年月	行事	場所	参加者
平成31年	2月	防災拠点訓練	大岡小学校 本大岡地区町内会 地域住民
		一時避難所訓練	中島町公園 地域住民
		笑顔表情筋レッスン	ぼれぼれ ぼれぼれ利用者 地域住民
	3月	笑顔表情筋レッスン	ぼれぼれ ぼれぼれ利用者 地域住民

4. 他機関や支援者間の連携

利用者やご家族からの相談内容も多様化し、一人暮らしの希望やグループホームの入居、金銭や貧困家庭、就労、体調などに関連した問題があがっています。

ラフォーレさくらだけでは抱え込まず、定期的に行われる会議やカンファレンスを通して関係機関より助言を受け、適切なサービスに繋げていただきましたが、状況を把握するだけにとどまるケースも増えました。話の内容や、その時の気持ちによっては聞いてもらうだけで利用者が満足することもあるれば、話しを進めてほしいと願うケースもあり、その気持ちに沿って対応する大切さが求められました。一人暮らしやグループホーム体験、就労支援事業所へ通所などの段階を経て、課題を一つひとつクリアしながら自立した社会生活を営むことへ導ければよいのですが、ご本人の願いや理想と現実に差が生じています。

支援者の連携については、利用者の状況を職員やボランティア間で常に把握し対応してきました。定期的に話し合う機会を設けた他、体験教室事前講習会などにも参加してもらい支援者間のコミュニケーションも図りました。

5. 防災訓練について

「通所中に起きる災害に備え、地域の方々に利用者の顔を覚えていただくことを大切にしています」と事前に周知し、防災訓練に参加する利用者が増えた反面「楽しくなかった」という意見もありました。地域の一員であるという自覚や防災意識を高める大切さ、訓練の意義などを繰り返し伝えていく必要性を感じました。また、備蓄品のルールについて、災害発生から最低3日間は被災地域内で自立することが求められることも学びました。備蓄品の見直しや賞味期限の点検、非常食の試食体験も行いました。

6. 学習・研修参加

研修会や学習会へ参加し、職員の資質向上に努めました。

開催月	研修・講演会名	場所
5月	・支援について	南福祉ホームむつみ
6月	・顔の見える関係づくり	大岡地区センター
8月	・法人・事業所の適切な運営について ～コンプライアンスと内部牽制体制～	横浜市健康福祉総合センター
10月	・あんしんセンターについて	浦舟複合福祉施設
	・恵友会で南区にある グループホームについて知ろう	横浜市健康福祉総合センター
2月	・青年期・成人期ダウン症候群の退行	あいの木 にじ

7. その他

地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」という番組のパーソナリティーの方が来所されました。それをきっかけに、定期的に行っている絵手紙教室で作製した、リクエストやメッセージ入りの葉書を送り、番組の「お便りコーナー」で紹介していただきました。ラフォーレさくらの所在地や活動内容を含めた施設情報も発信しました。

Ⅲ. 後見的支援センター とつかエコー

1. 今年度の取り組み

(1) 支援内容の振り返りと整理

登録者数の推移は以下の通りです。

登録者数	前年度末		74名						
	今年度	上半期	10名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
				0名	1名	2名	1名	5名	1名
	今年度	下半期	15名	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				0名	3名	3名	3名	2名	4名
今年度	終了	7名	(入所施設入所 1 死亡 2 他区 GH 入居 2 休止 2)						
合計		92名							

今年度は、事業開始4年目を迎えるということもあり、支援プロセスの見直しと支援効果を意識した取り組みを行いました。何に向かってどのような面談を積み重ねると本人理解につながるか。ご本人やご家族の理解をどのように他の支援機関とつなげ“あんしん”を構築するか進めていきました。その中で、将来への“あんしん”の構成要素は、「健康管理支援」「財産管理支援」「生活支援」の3つであり、その3つを本人が意識しやすい、取り組みやすいように工夫してわかりやすく伝え、実感の持ちやすい表現に変え、“あんしん”を身近に感じてもらえるようにアプローチしました。それぞれの考えを出来るだけスムーズに引き出せるように、意思決定支援の1つとして面談をただ重ねていくだけではなく、理解度合いや背景をもとに面談に臨むことで、意思決定しやすい環境づくりを行えたと思います。ご家族も同様で、問題や課題には気づきやすいのですが、希望や願いとなると消極的になってしまうので、様々な可能性を混乱ないように提案するとともに、一緒に考える姿勢を前面に出しました。そのことにより信頼関係の一步が構築され、暮らしの様々な場面と一緒に考えることが出来ました。成年後見制度を使う前段階で、どのような準備をどのように進めていくべきかを専門の弁護士などと整理して伝えることにより、将来の希望や願いを明確化することも出来てきています。

定期的にお会いしていくことの中で、支援者が意識して発信し、それぞれの声に耳を傾けることによって、停滞したものが動いたり、本人の意欲の活性化につながったりと支援効果を少しずつですが、感じる事が出来ました。寄り添うことの難しさを痛感していますが、地域の発信を上手にキャッチして、わかりやすく伝えることで、ご本人およびご家族が孤立することなくスムーズに選択して、よりよい生活を作り出すモデルが少しずつできるようになってきました。

(2) 会議

ご本人やご家族の状態を確認、共有し、支援計画を策定する支援会議を月2回実施しました。また、全体でのマネジャー会議への月3回の参加や合同担当者会議月1回、代表者会議年3回などの会議を通して制度理解に努めました。その他にも登録者のケースカンファレンスや随時支援室内でのケース会議など行い、登録者像を的確につかめるようにしました。

(3) (制度) 説明会

訓練会や特別支援学校、機能強化型地域活動ホームなどでの説明会を実施しました。また、戸塚区地域自立支援協議会の「地域を創る分科会」に参加し、他の制度とともに障がい分野の制度の一つとしての後見的支援制度の説明を地域ケアプラザなどで行い、登録者増につながりました。

(4) 地域連携

戸塚区高齢・障害支援課との連携を図り、様々なケース対応の切り口としてアプローチを行いました。地域ケアプラザ、自立生活アシスタント事業、戸塚区基幹相談支援センター（定期的に連絡会を開催）、戸塚区就労支援センター、戸塚区生活支援センターとも連携を図り、困難ケースやケースの掘り起こしに戸塚区の障がい支援チームの1つとして参加させていただきました。また、地域の民生委員の方や有志の方から日頃より気にかけている障がい者の世帯を教えていただき、どのようにアプローチしていくかを戸塚区社会福祉協議会などと連携して模索しました。

(5) 組織体制

9月に入り、障害者支援センターから配置されているあんしんマネジャーの異動があり、新しいあんしんマネジャーとともにこれまでの活動を振り返りつつ、整理してより良い活動を行えるような積極的なチーム作りの土台が出来ました。あんしんサポーターが2月に異動になりましたが、混乱することなく登録者へお伝えし、安定した活動を維持することが出来ました。

(6) 研修

障がい者支援を幅広く理解し、実践するために、障がい者支援を全体的に見て自分の力にするために外部研修に積極的に参加しました。

開催月	研修・講演会名
4月	後見的支援制度 後見的支援計画の在り方 3回（推進法人講師）
5月	後見的支援制度 面談と振り返りの在り方 2回（推進法人講師）
6月	後見的支援制度 成年後見制度と後見的支援制度の在り方 2回（推進法人講師）
7月	障がいってなあに（外部講座参加）
8月	障がい児・者のライフステージ（外部講座参加）
9月	障がい者雇用と職業上の向上（外部講座参加）
10月	障がい福祉と生活上の特性（外部講座参加）
11月	応用行動分析の理論と実践（外部講座参加）
12月	認知行動療法の理論と実践（外部講座参加）

(7) その他

“あんしんキーパー”は、制度理解をしていただいている地域の方になっていただきました。

	登録者数		
	昨年度末	今年度	計
あんしんキーパー	5名	2名	7名

IV. ホープ川上

1. 利用実績

4月から2名、9月に1名、10月に1名の方の利用日が追加され、月曜日から土曜日まで、稼働日数に対して安定した利用者数を積み上げることができました。12月末から1名の利用者が医療保護入院となっていることから利用が止まっています。昨年度5月から利用を休まれている方に対しては、ご家族の強い希望もあって、利用再開に向けたアプローチを続けてきましたが、ご本人の意思を利用に向けていただくには至りませんでした。逆にそのことが日中の通所利用にまで影響してしまうことになっていたため、ご家族とも相談の上、ご本人の意思を尊重する形により3月末で契約が終了となりました。

利用者の年齢は30代後半～40代後半で占められています。帰省中に、長く起きていなかった発作を起こされた方や、年末に体調を崩して初めての蕁麻疹がでた方、喘息を発症されて一月以上帰省して療養される方、体重の増加が顕著な方など、加齢も原因とみられる、長いスパンでの体調変化が感じられました。日々の体調観察と、緊急時などの準備が重要なことを痛感させられる一年となりました。

【平成30年度】

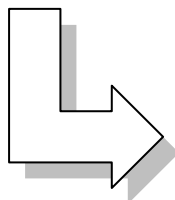
各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	24日	25日	26日	25日	24日	23日	26日	25日	24日	22日	23日	26日	293日
区分6※	20	16	21	21	21	23	23	22	24	21	23	26	261
区分5※	36	30	34	38	35	34	43	38	32	29	34	37	420
区分4※	46	47	48	48	45	44	49	48	37	22	23	26	483
全利用者数	102	93	103	107	101	101	115	108	93	72	80	89	1,164

※総延べ利用者数（人日）

【平成29年度】

各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	25日	24日	26日	25日	24日	25日	24日	25日	25日	23日	23日	26日	295日
区分6※	20	13	22	20	20	15	21	14	20	19	19	21	224
区分5※	35	19	13	15	20	27	27	24	27	23	27	27	284
区分4※	25	24	26	25	24	25	46	43	43	40	39	45	405
全利用者数	80	56	61	60	64	67	94	81	90	82	85	93	913

※総延べ利用者数（人日）



利用者の数		6人
内訳	区分6の利用者数	1人
	区分5の利用者数	3人
	区分4の利用者数	2人

2. 職員体制

4月よりグループホームの担当職員1名が日中活動部へ、日中活動部の担当職員1名がグループホームへ異動しました。生活支援員を兼務する世話人2名（夜勤）、調理と清掃を担当する世話人2名の体制で運営しました。

月1回開催している世話人会議や業務日誌でのやり取りを通して、職員間のスケジュールを確認し、勤務変更が入る場合も業務や支援に支障が出ないように調整しました。

3. 利用者支援

(1) 生活支援

利用者個々の生活リズムに対応し、その人らしい生活を尊重して暮らしていただいています。洗濯や自室の清掃など個人のことは、利用者各自がしっかり行えるようになりました。配膳やテーブル拭きなど食事の準備、ゴミ捨てなどは皆で順番に、協力して行っていただきました。これまで自分のことしかしなかった利用者でも、自発的に、そと皆のための行動をしてくださることがあります。そういった姿を見ると、共同生活は“自立度”以上の成果も得られる場であることが感じられました。

(2) 健康管理

毎日入浴前と起床時のバイタルチェックで、各利用者の平熱を把握しました。月末の体重測定も継続し、ご家庭とも共有しました。

インフルエンザ時期に熱発された利用者を、夜間病院まで受診同行したことがあった他、入浴時に皮膚の病気（じんましん）を見つけ皮膚科受診につなげたことがありました。夜間の急な熱発でも、ご家庭とスムーズな連絡をとることができました。

(3) 地域生活

東戸塚地域活動ホームひかりからグループホームまでの移動途中にある商店でおやつを購入したり、地元住民の方とすれ違う際に挨拶をすることを続けています。近隣で半年に渡って水道工事が続いているため、通所の経路が変わることがあり、新たに挨拶を交わす方が増えました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

計1件の事故が発生しました。

- ・眠前薬を服薬していただくところ、朝食後のものを服薬してしまった。そのまま就寝し、翌朝の朝食後に間違いに気づいた。翌日分の朝食後薬を服薬していただいた。主治医に意見をうかがった後、保護者と通所先にも連絡した。
- ・薬袋を手渡す際には、声に出して確認してから渡す。
- ・備蓄薬を準備しておく。

2) ヒヤリ・ハット

計13件のヒヤリ・ハットが発生しました。(ホーム内×7件、ホーム外×6件)
以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

- ・夕食後、ソファの背もたれに寄り掛かるように腰かけてテレビを見ていた。やがてウトウトしはじめて体が振れてきて転倒しそうになっていた。
- きちんとソファに座るよう声掛けした。
- ・3番目の利用者が入浴前に、湯温が47℃になっていた。
- すぐに足し水をして対応した。
- ・帰りに買い物で商店に寄った。出るとき、少し車道に飛び出しそうになり、慌てて手を引いて止めた。「急に飛び出したら危ない」と強めに注意した。
- 職員が必ず先に出るようにする。

4. 学習・研修参加

職員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

開催月	研修名	場所	参加者
2月	食形態と嚥下の関係	東戸塚地域活動ホームひかり	三野

5. 防災の取り組み

9月に火災、3月に地震を想定した避難訓練を行いました。3月の際は、消防署員立会いの消火器訓練も行いました。避難訓練に合わせて、持ち出し用備品の確認や、備蓄食料の賞味期限の確認も行いました。